

## やさしい人の多いまち 登別

関さんは、南通市外事弁公室で、主に日本の友好都市訪問団の受け入れや日本への訪問団の派遣などを担当しています。

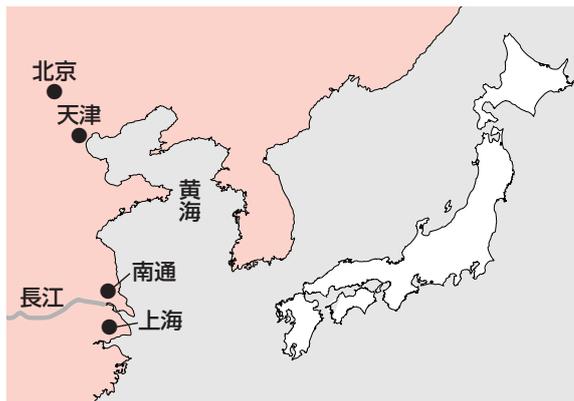
南通市は、長江を挟んだ上海の北に位置し、東に黄海、南に長江が広がる水に恵まれた都市で、人口は約780万人。綿紡績を中心とする繊維産業が盛んなまちです。

「職場の上司にこの研修を薦められ、自分にとってプラスになると思い、すぐに行くことを決めました」と話す関さん。

「研修先が登別市に決まり、北海道は知っていましたでしたが、登別のことには知らなかったのです。インターネットで調べると、温泉に関する記述が多く、有名な温泉のまちということが分かりました。南通市には温泉がないので、温泉に入ることも楽しみに一つです。登別に来て約1カ月が過ぎましたが、風景がきれいでやさしい人が多いですね。いろいろなことが体験できるので、寂しいと思ったことはありません」と登別の印象などを話してくれました。

## たくさんのお話を 体験したい

「これまでの約1カ月間は一般



行政を研修してきましたが、仕事を進めるに当たって、しっかりと計画を立てるところが参考になりました。これからは観光行政の研修が主になりますが、日本の観光の現状や中国との違いをしっかりと勉強したいですね。ここで、経験したことを中国に帰ってからみんなに伝え、仕事に生かしたいです。今回のような長期間にわたって外国で生活することは、めったにない機会ですので、日本の伝統文化などたくさんのお話を体験したいです。そして、たくさんの方と交流し、日本語のレベルの向上にもつなげたいですね」と笑顔で話してくれました。

関さんは、11月21日に帰国する予定です。



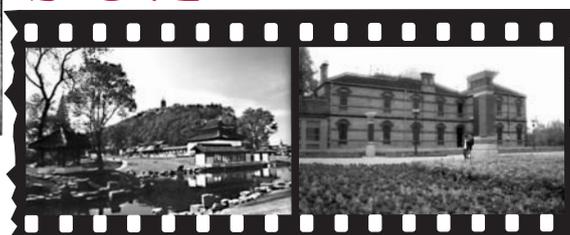
K I R A R I

ミン 関さん (南通市)

市は、国際交流事業の一環として、総務省が行う自治体職員協力交流事業の協力交流研修員を受け入れています。

協力交流研修員として、登別市の一般行政や観光行政などを学ぶため、中華人民共和国の南通市から5月20日に来日、6月21日から登別市での研修を始めた関さんに登別の印象や研修の意気込みなどをお聞きました。

## 経験したことをみんなに伝え、仕事に生かしたい



▲狼山

▲南通博物苑



1980年南通市生まれ27歳

山西财经大学卒業。現在、江蘇省南通市外事弁公室に勤める。両親と南通市に居住。